令和7年度第1回

第131回札幌市都市計画審議会

議 事 録

令和7年5月13日（火）午後2時開会
札幌市役所本庁舎 12階 1～3号会議室

札幌市まちづくり政策局

もくじ

1	開会	1
2	議事録署名人の指名	2
3	議事	2
	◎北4西3地区について	2
4	閉会	12

第131回（令和7年度第1回）札幌市都市計画審議会

1 日 時 令和7年5月13日（火）午後2時00分～午後2時46分

2 場 所 札幌市役所本庁舎 12階 1～3号会議室

3 出席者

委員：岸本 太樹会長をはじめ21名（巻末参照）

札幌市：まちづくり政策局都市計画担当局長 稲垣 幸直

まちづくり政策局都市計画部長 小林 伸樹

まちづくり政策局都市計画部都市計画課長 岩瀬 範昭

まちづくり政策局都市計画部地域計画課長 永井 雅規

まちづくり政策局事業推進担当部長 林 久哲

4 議 事

【諮問案件】

（市決定）

議 案 第1号 札幌圏都市計画都市再生特別地区の変更【北4西3地区】

第131回 都市計画審議会 案件一覧

【諮問案件】

(市決定)

議 案 第1号 札幌圏都市計画都市再生特別地区の変更【北4西3地区】

案件グループ分け

【諮問案件】

順番等		案件概要			
		地区、施設等 名称	都市計画決定・変更の種別	番号	採決
市 決 定	①	北4西3地区	都市再生特別地区の変更	議案第1号	第1号

1. 開 会

●事務局（岩瀬都市計画課長） 定刻となりました。

本日は、お忙しいところ、ご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

ただいま、委員24名のうち、21名の方がおそろいでございます。定足数に達しておりますので、ただいまから令和7年度といたしましては第1回目となります第131回札幌市都市計画審議会を開催させていただきます。

私は、札幌市まちづくり政策局都市計画部都市計画課長の岩瀬でございます。どうぞよろしくお願いたします。

最初に、委員の皆様にお知らせがございます。

本市におきましては、今年度より、省エネルギー対策として、冷暖房に頼り過ぎないノーネクタイなどのエコスタイルでの勤務を通年で実施しておりますことから、私たち事務局員及び説明員はこのエコスタイルで審議会に出席させていただいている者もおりますことをご了承願います。

続きまして、委員の委嘱につきましてご報告いたします。

まず、市議会議員の職を有している委員におかれまして、かんの太一委員、北村光一郎委員、伴良隆委員、わたなべ泰行委員、以上の4名が退任され、新たに5名の委員を委嘱させていただいておりますことから、新委員の皆様をご紹介させていただきます。

五十音順にお名前を申し上げますので、恐れ入りますが、その場でご起立をいただけますでしょうか。

まず、うるしはら直子委員でございます。

次に、川田ただひき委員でございます。

次に、小口智久委員でございます。

次に、小竹ともこ委員でございます。

最後に、水上美華委員でございます。

続いて、関係行政機関の委員につき、今年度の人事異動により委嘱されました方をご紹介いたします。

北海道警察本部交通部長の田中昭彦委員でございます。本日は、代理人として北海道警察本部交通規制課の上野貴弘様にご出席です。

新委員の皆様におかれましては今後ともよろしくお願いたします。

最後に、当審議会の事務局も人事異動に伴いまして変更がございますので、ご紹介させていただきます。

事務局側に座っておりますけれども、まず、都市計画担当局長の稲垣です。

次に、都市計画部長の小林です。

最後に、私は、都市計画課長の岩瀬と申します。どうぞよろしくお願いたします。

続いて、本日の委員の出欠状況についてですが、池田委員、大島委員、能瀬委員につきましては本日欠席される旨のご連絡をいただいております。

次に、資料の確認をさせていただきます。

議案書、パワーポイント資料につきましては事前に送付させていただいておりますが、本日、ご都合によりお持ちにならない委員の方がいらっしゃいましたら挙手にてお知らせ願います。

委員のお席には、配付資料1として会議次第、配付資料2として案件一覧、配付資料3として委員名簿及び座席表がございますので、ご確認のほど、よろしくお願いいたします。

なお、本日の議案に関連する部局として、まちづくり政策局の都市計画部の関係職員が出席しております。よろしくお願いいたします。

ここで、傍聴席、報道席にいらっしゃる皆様にご連絡がございます。

場内の撮影につきましては議事に入りました後はご遠慮をいただいております。議事に入るのは会長による議事録署名人の指名の後になりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、以降の進行につきましては岸本会長にお願いいたします。

2. 議事録署名人の指名

●岸本会長 当審議会の議長を務めさせていただいている岸本と申します。よろしくお願いいたします。

では、早速ですが、今回の議事録署名人を指名させていただきます。

議事録署名人は2名でありまして、1名は学識経験者の回り番、もう1名は市議会議員と市民委員が交代で行い、それぞれの回り番でお願いしております。

今回は、岸委員と森田委員にお願いいたします。

3. 議 事

●岸本会長 それでは、議事に入ります。

初めに、確認事項でございます。

当審議会における採決ですが、札幌市都市計画審議会条例第7条第4項にございますように、出席委員の過半数をもって決しており、その確認は賛成の方の挙手によって行っております。ご承知おきくださいますようお願いいたします。

本日は、諮問案件1件について審議いたします。

説明やご発言に当たっては、要点を明確に、かつ、簡潔に行っていただきますよう、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

◎北4西3地区について

●岸本会長 それでは、議案第1号の北4西3地区についてです。

準備ができましたら担当部局からご説明をお願いします。

●永井地域計画課長 それでは、議案第1号の都市再生特別地区北4西3地区の変更につ

いてご説明いたします。

なお、今回の変更は、当初決定した市街地再開発事業の目的が変更されるものではなく、変更内容が軽易であり、変更により広く影響を及ぼすものではないことから、事前説明を省略し、本日の諮問とさせていただきます。

ただ、事柄としては表にただし書きを入れるというシンプルなものですが、背景となる事柄がテクニカルで、建築基準法の立てつけや用語の定義が入っていないとなかなか腑に落ちないような点もあろうかと思えます。説明も丁寧にさせていただくのですが、それでもなおというところは質疑の中で対応させていただくことをご了承願います。

説明事項といたしましては、今、画面に映っていますとおり、地区の概要、地区の経緯及び整備の方針、都市計画の変更の内容、都市計画法に基づく変更案の縦覧であり、この順にご説明いたします。

初めに、地区の概要についてです。

こちらは、当地区周辺の空中写真です。

当地区は、札幌駅南口駅前広場の正面に位置しており、地区の北側は都市計画道路の北5条・手稲通、西側は都市計画道路の札幌駅前通に面しており、また、東側は市道西3丁目線、南側は市道北4条線に面している街区です。

そして、地下においては、地下鉄南北線さっぽろ駅と街区の西側で、地下鉄東豊線さっぽろ駅と街区の南側で接続し、さらに、都市計画道路の札幌駅前通公共地下歩道とも接続しています。

次に、当地区の経緯及び整備の方針についてです。

当地区は、平成21年の西武百貨店本館、ロフト館の閉館以降、札幌市と街区内の地権者により街区一体での再開発に向けて意見交換を重ねてきました。そして、令和元年5月に街区内の地権者により再開発準備組合が設立し、施設計画等の検討が進められ、令和4年3月に市街地再開発事業やそれらを推進するための都市再生特別地区や地区計画などの都市計画を決定いたしました。その後、再開発事業の検討を進め、この3月から工事に着手しております。

市街地再開発事業及び都市再生特別地区の決定に当たっては、こちらに示す四つの整備方針として、地下鉄南北線さっぽろ駅の機能拡張や地下ネットワークの整備、良好な都市空間や景観形成、ビジネス機能の強化やにぎわい、交流の促進、エリアの強靱化を掲げており、これらの実現に向けて施設整備計画を検討してきたところです。

整備方針の一つである地下ネットワークの整備についてですが、本計画建物は地下2階で地下鉄南北線さっぽろ駅のホーム階と接続し、地下1階でも南北線さっぽろ駅のコンコース階と接続する予定です。計画建物の内部では、敷地内を通過して街区を東西に貫通する地下通路を整備します。また、市道西3丁目線の道路区域の地下に本事業で地下通路を整備することで南北線さっぽろ駅から建物内の地下通路を通じて街区の北東方向へ接続する経路が形成されます。

加えて、都市計画道路北5条・手稲通の道路区域の地下にも本事業によって地下歩道を整備することで、南北線さっぽろ駅や都市計画道路の札幌駅前通公共地下歩道から街区の北東方向に直接行き来ができるネットワークを形成いたします。

本事業にて、これらの地下歩行空間が整備され、街区の北東方向へのアクセス性が向上することで、今後、整備が計画されているバスターミナルや北海道新幹線駅方面への地上、地下における歩行者ネットワークが拡充され、札幌駅周辺の回遊性を高めることに貢献いたします。

このような整備方針を踏まえた現在の施設計画はご覧のとおりとなります。

なお、パースについては、昨年末に準備組合から提供を受けたものであり、変更がある可能性もありますが、施設計画の内容については令和5年度都市計画審議会にてご説明した内容からの変更はありません。

次に、今回の都市計画の変更の内容についてです。

まず、現在の都市計画決定状況についてです。

当地区には、4周の道路中心線までを区域に含む形で都市再生特別地区を指定しています。また、そのうちの北半分をA地区、南半分をB地区と区分しております。

都市再生特別地区で定める建築物の制限はご覧のとおりです。

都市再生に資する取組や都市機能の高度な集積を図るために指定容積率の800%を超えて容積率の最高限度を定めるとともに、周辺市街地への配慮や良好なまち並み形成のため、高さの最高限度や壁面の位置の制限を定めております。加えて、敷地の高度利用を促進するため、低容積かつ小規模な建築物を抑制することを目的に容積率の最低限度及び建築面積の最低限度を定めております。

具体的な数値ですが、容積率の最低限度は300%、建築面積の最低限度は300㎡となっております。

次に、今回の都市計画の変更の内容についてです。

今回の都市計画の変更は、都市再生特別地区の北4西3地区の制限のうち、容積率の最低限度及び建築面積の最低限度の項に「ただし、道路区域内に設ける建築物を除く」という文言を追加し、当該制限項目の適用の範囲を明らかにする変更を行います。

本事業では、B地区に高層の南棟を、A地区には中層の北棟を整備し、加えて、A地区の道路区域の地下に地下歩行空間を整備する計画ですが、この地下歩行空間部分が今回の変更目的となる部分です。変更により道路区域内に設ける地下歩行空間部分については建築物の容積率の最低限度と建築面積の最低限度の制限が適用されないように整理することとなります。

ここで、変更の背景についてご説明いたします。

この道路区域内の地下歩行空間部分については、各種法令の手續上、建築物もしくは道路法上の道路などとして取り扱いますが、市街地再開発事業の都市計画決定後、事業認可や組合設立認可など、詳細な計画を詰めていく中で、関係機関との協議の下、この扱いに

至ったもので、当初の都市計画決定時点では当該地下歩行空間部分の取扱いが確定しておりませんでした。

このような背景があり、地下歩行空間部分を建築物として取り扱うことにより、例えば、にぎわいを創出するために当該地下歩行空間部分に面して連続して店舗の顔出しをすることが可能となり、より魅力的な都市空間の形成を図ることで本事業の目的の遂行に資すると判断いたしました。その結果として、建築物として扱うことにより、このままではこの地下歩行空間部分にも都市再生特別地区に定める建築物の制限が適用されることとなります。

しかし、当初の都市再生特別地区の決定時点では、建築敷地外である道路区域内の構造物に対して制限を設けることは意図しておりませんでした。特に、建築物の容積率の最低限度及び建築面積の最低限度の規定は、建築敷地において小規模な建築物を抑制するために設けている制限であり、本事業における道路区域内の建築物を制限することを目的としておりません。そのため、今後の整備に当たって、道路区域内において建築物の容積率、建築面積の最低限度の制限がかかることのないよう、これらの制限について道路区域内においては適用を除外するための変更を行います。

なお、本都市計画変更は、当初に決定した市街地再開発事業の目的が変更されるものではなく、都市再生に資する取組を遂行するために必要なものです。また、都市再生特別地区は、具体的取組について合理的な範囲での変更を許容する仕組みとされていることから、当該地下歩行空間の取扱いの方向性が定まった今回のタイミングで変更を行うものです。

最後に、都市計画法に基づく案の縦覧についてです。

都市計画法に基づく案の縦覧を4月17日から5月1日まで行いましたが、意見はありませんでした。

以上で議案第1号の説明を終わります。

●岸本会長 それでは、ただいまの説明についてご質問等がございましたらお伺いいたしますので、よろしくお願いいたします。

●森田委員 私は、今回の議案に一切の異議はございません。まず、そのことをお話ししておき、その上で確認したいことがございます。

9ページの4の地下歩行空間との兼ね合いについてです。

何年か前に胆振東部地震があってブラックアウトになり、地下歩行空間にかなりの市民の方が帰宅困難者として滞在したことがあったと記憶しております。そういうことがこれからは起きないとは限りません。今後、組合と業者と市でいろいろと計画されると思いますが、今お話しできる範囲で結構ですので、ご説明をいただければありがたいです。

●永井地域計画課長 黄色で示している部分ですが、一時滞在施設として、一番下に書い

てございますように、広さは約1,250㎡、収容人数は約750人となっており、災害時に一時避難できるように施設設計をしております。また、青色の部分には防災備蓄倉庫なども完備しております。

●森田委員 災害があつてからでは遅いのです。これからも再開発があちらこちらで行われ、地下空間も兼ねてやるところが結構出てきていることに市としても十分にご配慮をいただきながら市民の安全と安心を保っていただくようお願いいたします。

●岸本会長 今回の点について確認です。

都市計画法上の指定容積率800%をA地区とB地区を合わせて1,570%に緩和するに当たって、今回の内容の対象となっている地下歩行空間との接続や様々な公共貢献をやることを前提として都市再生特別措置法に基づく特区制度を使って容積率を緩和しているということです。

したがって、基になる都市計画決定をするに当たって、今ご指摘をいただいた点は、当然、議論の対象になっておりまして、市民の方々が災害時にここに一時的に避難するときを受け入れる、十分かどうかは災害の規模によって変わってくるかと思えますけれども、最低限の急場をしのご必要な物資を備蓄することを条件に前回の都市計画決定をしており、今回、それは全くいじらないという理解でよろしいでしょうか。

●永井地域計画課長 そのとおりです。

●岸本会長 災害時の避難歩行経路協定はこの組合とは結ぶのでしたか。そこまではやっていますでしたか。そもそも制度の対象かも分からないのです。

●永井地域計画課長 災害時における帰宅困難者等の支援に関する協定を危機管理局と結ぶことになっております。

●岸本会長 では、今、森田委員がご懸念のことに対し、その体制を整えることについては変わりがないということですね。

ほかにございませんか。

●欠委員 諮問案件であり、大切な内容でもありますので、確認をしておきたいと思えます。

今、災害時などのお話もありましたけれども、ここは駅を出たときに札幌の顔として見るところだと思われまますので、人に優しい、あるいは、札幌らしさがあるなど、地上、地下を含め、アピールする点や工夫されている点などがもしありましたら教えていただきたい

いです。

●永井地域計画課長 今の欠委員のご質問は、事業内容もちろん、札幌の顔として、ある意味では景観的な分野も含む事柄だと思っております。

こちらは、景観条例に基づく景観プレ・アドバイスにもかけながら事業を進めており、その内容も含めて都市計画の提案がなされ、今に至っております。例えば、過去、景観プレ・アドバイスでは、ガレリア空間の演出についてしっかりと内容を盛り込んでほしい、建物内部のにぎわいの表出、内外がつながることを感じられるようなしつらえを検討してほしいということなどを言われながら事業が進んでいるところです。

今、具体的に絵で示すことはできないのですが、その内容を事業計画にも盛り込んでおります。

●岸本会長 私の記憶が定かではないところもあるのですが、地下鉄南北線さっぽろ駅との接続に関し、1970年代と今では構造物に大きな違いがあるわけです。そのため、さっぽろ駅に向かうところで高さや段差が生じないようにスロープ化したというようなことがありますませんでしたか。バリアフリーにはかなり配慮したイメージがあるのです。

優しさといいますか、そういうことを聞かれないのではないのでしょうか。

●永井地域計画課長 バリアフリー絡みでいけば、例えば、今、地下鉄南北線さっぽろ駅からアピアに上がる場所には段差があり、皆さんは階段を上り下りすることになっています。現在も端のほうにエレベーターはついていますが、今回の整備の中で、その階段の左右に、例えば、左端は上り、右端は下りのエスカレーターをつける改修工事を行う計画です。

また、今言った話とは違う図ですけれども、地下鉄南北線の真駒内方面のコンコースを増床します。今、地下鉄駅は島式になっていて、麻生駅方面に行く人と真駒内方面に行く人の両方が同じ島にたまっていますけれども、今回の整備の中で北4西3側にホームを増設し、外側の赤色のホーム幅員約6mという部分の床を増設し、真駒内方面に行く人はそちらのホームに下りていくようにして混雑の解消をすることになっています。

それと同時に、ホーム階が上がっていくと手前の図になります。90度曲がっていますけれども、ここが先ほどのホームが増設される部分です。ラッチを出て上に上がるとミナパというアイヌの公共空間があります。その北4西3側にホーム階、コンコース階、地上階が連続するエレベーターを設置し、動線を確保します。

あくまで一例になりますけれども、そういうバリアフリー対応も行っております。

●岸本会長 要するに、そうしたことも含め、混雑を回避しながら、他方、車椅子の方が移動するのに必要な幅員を確保しつつ、高低差を可能な限り解消することについても十分

に配慮しているということを確認の上、容積率を緩和できているかというご質問かと思うのです。

また、景観の問題については、地表面においてセットバックしていること、あるいは、圧迫感が出ないように中層階までは敷地ぎりぎりまで建てていないといったことを簡単にご説明されればご理解をいただけるのではないかなと思います。

全部を今ここで説明する必要はないのですけれども、そういったところが配慮できていますかというご質問かと思います。

●永井地域計画課長 そういう視点では、全てを網羅的には言いにくいのですが、事業計画としてはバリアフリー対応をしっかりとさせていただいております。

●岸本会長 圧迫感がないようにセットバックした上でなど、いろいろとかなり細かく本審議会で審議や事前説明資料が公開されているはずですよ。

●永井地域計画課長 そうです。

●岸本会長 欠委員、もしご懸念のことやご確認をいただきたいことがあれば、都市計画決定したときの審議会の資料があるかと思いますので、それをご覧いただいて、またご質問があればご質問をしていただければと思うのですけれども、いかがでしょうか。

●欠委員 およそ理解できました。

とにかく、人により優しく、市民にもそれ以外の方にとっても分かりやすく、移動しやすくお願いしたいと思います。

それから、景観のことは私が強く思っているものの一つでした。セットバックの話など、いろいろとありましたし、写真やイメージを見てもおおよそいいのではないかなと思われるので、そのように進めてください。

●岸本会長 ほかにございませんか。

●岸委員 現場では既に工事が始まっていて、どんな建物ができるかが決まっているのに今ここで変更の審議をするということですよ。では、もし、この後、否決されたらあのプロジェクトはどうなるのでしょうか。

今回、変えなくてもプロジェクトは進むものなのか、やっぱり変えなければいけないのかだけ教えてください。

●永井地域計画課長 こちらの平面図をご覧ください。

大きくはA地区、B地区という分かれ方をしておりまして、A地区の北棟という中層棟の建物で一つの建築確認申請が動いています。さらに、B地区でも南棟という高層棟でも一つの建築確認申請が動いています。そして、今回お諮りしている道路区域内における地下建築物も三つ目の建築確認申請として別に動いていまして、事業としては三つの区域に分けて施工されていくというイメージを持っていただければと思います。

その中で、今回、整理が必要な三つ目の道路区域内の区域として、今後、建築確認申請等が進む中で整理が必要だということになり、お諮りさせていただきました。

●岸委員 要するに、今回の審議案件が通らないと、地下歩行空間といいますか、地下歩道はできないということですね。

●永井地域計画課長 紫色の部分はそういうことになります。

●岸委員 分かりました。

●岸本会長 A地区、B地区でそれぞれ建築確認をもらっているわけですから、建物の変更はないのですよね。

●永井地域計画課長 そうです。

●岸本会長 紫色の部分の歩行空間ができるということは前提で、A地区とB地区を1,570%にしたのですよね。この紫色の部分について、構造上、まだ決まっていないところはあるだろうけれども、これをつくるということは決まっているのですよね。

●永井地域計画課長 はい。

●岸本会長 ただ、今から建つ建物やできる敷地外の地下空間は変わらないし、今から何年後になるかは分からないけれども、今後、ここを再度開発することになったとき、A地区、B地区が小規模な低層の建物でごちゃごちゃとなるとせっかくの札幌駅前の一等地の利用が非効率なものになるから、最低限度の容積率300%以上の建物しかここには建てられませんという規制をかけるに当たって、この紫色の道路の部分を除いて300%以上の建物を建てる地区とするという変更をかけるのですよね。

●永井地域計画課長 そのとおりです。

●岸本会長 そうだとするならば、今の岸委員の質問に対する回答としては、今回の変更

が認められなかったら地下空間はできないのですかと言われたときに、できないのではなく、逆に言うと、つくらないと1,570%に緩和するという前提を消すことになるから、A地区、B地区にも問題が出てくるのではないですか。

私の理解では、300%以上というものにただし書きをつけ、ただし、道路区域内に建築物としてつくることになった地下歩行空間の容積を除いて、今、建てている最中なのだから、それを壊すのが5年後ということはないだろうけれども、今後、この地区に建物を建てる時には最低容積率は300%以上のものを建てる以外ないですというように規制を強化したという理解なのですから、間違いですか。

●永井地域計画課長 間違いありません。

●岸本会長 そうだとすると、今の岸委員の今回否決したら地下歩行地下空間はできないのですかというご質問に対して、できませんという回答は誤りではないですか。

地下歩行空間をつくること自体を認めるかどうかではなく、A地区、B地区の最低容積率を300%でカウントするに当たって、敷地外の道路空間の部分は最低300%の中に含ませんとするならば、今後、A地区、B地区に建物を建てる時に道路の分を含めた300%ではなく、道路を除いて300%以上をつくれということになりますから、規制を強化する意味だと理解していたのですけれども、違うのでしょうか。

●岸委員 私もそういうことなのかなと思ったのです。

●岸本会長 そういうことではないのですか。

●永井地域計画課長 そういうことにもなります。

●岸本会長 まだ表決を採っていませんし、委員の皆様方の頭の中は分からないから何とも言えませんけれども、皆さんに否決する雰囲気は出ていないと思います。しかし、仮に否決したとしても道路はつくってもらわないと困るのです。

●永井地域計画課長 岸本会長のおっしゃるとおりですけれども、一方で、地下歩行空間自体も公共貢献として容積率を緩和するメニューの一つとしてカウントしているのです。公共空間ができなくなったら容積率にも影響するかもしれないという意味でお答えをさせていただいたものです。

●岸本会長 ここは札幌駅に向かう人の流れにとって欠かすことのできないものですよね。ですから、地下歩行空間の構造を変える、ルートが変わるということではなく、A地区、

B地区の敷地において今後もし建て替えるときの最低容積率からこの空間を除いておきますという何十年後かの話なのですよね。しかも、緩めたのではなく、強化ですよね。そこは誤解がないようにしておかないとまずいかなと思ったのです。

●永井地域計画課長 説明がなかなかうまくできず、すみません。

●岸本会長 ほかにごぎいませんか。

●岸委員 都市再生特別地区というのは、ヨドバシの敷地の再開発が終わったら、どこまで制度が生きていくのかという岸本会長と同じ問題意識を私も持っています。例えば、今できたら50年ぐらいは使うのかなと思います。

50年後、また再開発が進んだときに都市再生特別地区は生きているものなのか、それとも、事業が終わった瞬間に終わるものなのかだけ教えてほしいです。

●永井地域計画課長 都市再生特別地区は生きます。

●岸委員 ずっと生きるのですね。

●永井地域計画課長 はい。

●岸本会長 勝手に、公共貢献します、だから1,570%に緩和してください、5年後にやっぱりやめましたは認められないということですね。これは、50年後に新しい建物を建てる時にはいろいろと考えるだろうけれども、あくまでも今の規制が変えられない限りは残っているということかと思います。

建築物の容積率の最低限度を300%にして、ただし、この道路区域外における建築物の容積は除いた上で規制をかける地区という形で明確化したいという市の提案について、ほかにご意見やご質問はごぎいませんか。

●長屋委員 事業者からの提案により市民の利便性向上をということで地下歩行空間をつくるのだということかなと思っております。

それについて異議はないのですけれども、「道路区域内に設ける建築物を除く」という一文をつけたとき、ここに新たな建築物をつくられることがないのかだけ確認をさせていただきたいと思います。

●永井地域計画課長 基本的に、道路区域内には建築物は建築できないということが建築基準法上の大前提になります。ただ、法律でも、ただし書きとして地下のものはつくれま

すし、建築物でいうと、札幌ではあまり見かけないですけれども、交番などの公益上必要な施設は許可を得た上で建てることができることになっています。

道路内につくるということは道路法も関わってきますので、そこに建てるときには道路管理者の許可も必要になります。また、建築物を道路上に建てることにおいて、各法令で許可をするという前提になっておりますので、今ここで道路区域内を除くとしたことで無秩序に建物が建てられるということは基本的にございませぬ。

●岸本会長 それも今回の変更提案によって手が触れられることはないということです。ほかにございませぬか。

(「なし」と発言する者あり)

●岸本会長 それでは、採決の手續に入ります。

議案第1号の北4西3地区について賛成の方は挙手をお願いいたします。

(賛成者挙手)

●岸本会長 全員賛成と認めます。

よって、本案については当審議会として同意することといたします。

それでは、以上で本日予定の審議案件は全て終了いたしました。

全体を通してご質問等はございませぬか。

(「なし」と発言する者あり)

●岸本会長 それでは、事務局から連絡事項等がございましたらお願いいたします。

4. 閉 会

●岩瀬都市計画課長 本日は、ご審議をいただきまして、誠にありがとうございました。

次回の審議会は、7月8日火曜日、会場は本日と同じ札幌市役所本庁舎12階会議室を予定しておりますので、よろしくお願ひいたします。

それでは、以上をもちまして第131回札幌市都市計画審議会を終了いたします。

本日は、誠にありがとうございました。

以 上

第131回札幌市都市計画審議会出席者

委員（21名出席）

阿部美子	市民
石嶋芳臣	北海学園大学経営学部教授
うるしはら直子	札幌市議会議員
欠政信	市民
川田ただひさ	札幌市議会議員
岸邦宏	北海道大学大学院工学研究院教授
岸本太樹	北海道大学大学院法学研究科教授
小口智久	札幌市議会議員
小竹ともこ	札幌市議会議員
佐藤源五郎	札幌商工会議所住宅・不動産部会部会長
田中昭彦	北海道警察本部交通部長（代理出席 上野貴弘）
中尾英樹	北海道建設部まちづくり局長（代理出席 菅原 剛）
長屋いずみ	札幌市議会議員
福田菜々	北海道科学大学工学部准教授
水上美華	札幌市議会議員
宮藤秀之	北海道開発局開発監理部次長（代理出席 佐藤涼子）
森田久芳	市民
山田洋子	市民
横田香世	市民
渡邊克仁	札幌商工会議所都市交通委員会委員長
渡部典大	北海道大学大学院工学研究院准教授